

若松区

●青葉市民センター

●古前市民センター

市民センターにおける生涯学習事業

区	若松区	センター名	青葉市民センター
---	-----	-------	----------

事業・活動名

地域で育てよう！子どもたち！～つながろうまち協・PTA・市民センター～

事業・活動の背景とねらい・目的

青葉台はニュータウンとして開発された、住民のほとんどが移住者のまちである。コロナ禍で地域コミュニティの希薄化が進んでしまったことにより、地域の将来のために若い世代と地域のつながりを強固にするため、地域全体でこの事業に取り組んだ。
まちづくり協議会や自治会、社会福祉協議会、小学校のPTAなど、日頃あまり関わりのなかった地域の団体や住民が企画から運営までを行うことで、住民同士が交流を深め、「わがまちの良さ」を改めて知ってもらう機会となり、将来地域活動の担い手となるような人たちの発掘や育成をすることを目的に実施した。

取組内容

ハロウィンイベント「みんなでハロウィン」の企画～開催

【企画会議～事前準備】

- ・令和5年7月～10月の毎週木曜日13時～15時に実施
- ・計19日間で延べ79名が参加

□連携した団体

青葉地区まちづくり協議会、青葉台地区社会福祉協議会、青葉台自治会、青葉小学校、青葉小学校PTA、生涯学習推進コーディネーター、クラブ協議会、子育てサポーター

■企画会議

- ・開催内容
- ・今後の準備の進め方 などについて決定
普段から子育てサポーターとして子育て支援に関わっているまちづくり協議会の役員や、青葉小学校のPTAなどが中心となって行われた。内容に関するだけでなく、PTAからは子どもたちのこと、地域からは校区の現状のことについて話し合う機会となった。

■事前準備

- ・当日子どもたちが製作する製作物のキット
- ・フォトスポット、夢の展示
- ・会場内の飾り物 などの製作
各団体が協力しながら同じ物を製作することで、交流する機会が自然に増え、つながりづくりへとつながっていった。

■開催

- ・日時 令和5年10月28日(土) 13時～15時
- ・場所 青葉市民センター、青葉台中央公園、グラウンド

・開催内容

市民センター:こもりバックや魔女の帽子などの製作ブース・科学の実験・サイエンスショー・ビンゴ大会・子どもたちの夢の展示・フォトスポットの設置 など

青葉台中央公園・グラウンド:グラウンドゴルフ・カン当て・輪投げ・人探し など

・延べ大人194名、子ども683名が参加

各団体が同じブースで一緒に活動し、普段関わりの少なかった大人たちが子どもたちと交流しながら協力し合い、深く関わるすることができた。

■開催後の意見交換会

・各団体から11名が参加

企画、準備、広報の仕方や当日の役割分担などについて、良かったところや課題について話し合いを行い、次年度の開催に向けて前向きに取り組める体制を整えた。

成果・効果

- ・企画、準備の段階から地域と若い世代がともに考え、意見を出し合うことで、お互いの思いを知ることができ、イベントの成功に向けて一丸となって取り組めた。
- ・地域の人たちとPTA、若い世代が同じブースで一緒に活動することで、それぞれが協力しながら交流を深めることができた。
- ・参加者だけでなく、運営側も仮装、ハロウィンの小物を身に着けることで、会場に一体感が生まれ、地域全体でお祭りを楽しむ雰囲気作りができた。
- ・子どもたちはイベントに参加して、たくさんの人たちが自分たちのために一生懸命活動している様子を見ることで、感謝の気持ちが生まれ、まちの良さを実感することとなった。

今後の取組

参加者からは毎年の開催を望む声が多く上がり、次年度も開催する予定。イベント後に企画から当日の役割分担など、事業内容の振り返りを行った。それぞれの意見、課題を共有し、次年度はもっと地域が一丸となるために、子どもたちも企画の段階から一緒に関わり、当日楽しむだけでなく運営にも参画するような仕組みを考えていく。

他地域展開を見据えた視点・ポイント

地域が一丸となるには、同じ目的意識を持って活動すること、団体同士の横のつながりづくりをすることが大切。イベントなどを開催する場合、子どもたちを中心に据えて、地域全体で取り組む。その際には、いろんな団体から1つのグループを作り活動することが、つながりづくりには重要である。

活動の様子

地域の皆さんで製作物の準備



イベント当日の打ち合わせ



ハロウィンフォトスポット



ドキドキ☆ビンゴ大会



何が起きる?科学実験



青空の下でカン当てゲーム!



地域・人づくりアドバイザー、地域・人づくり担当補佐の関わり

企画会議に参加させてもらい、企画に関するアイデアに助言を行ったり疑問に答えたりして関わった。準備期間中も、進捗状況について館長、職員とやりとりを重ね、必要な際には助言を行った。

作成者

若松区役所コミュニティ支援課 地域・人づくり担当補佐 濱口 奈菜

市民センターにおける生涯学習事業

区	若松区	センター名	古前市民センター
---	-----	-------	----------

事業・活動名

未来への架け橋 まち協ジュニア～次世代へバトンパスするために私達ができること～

事業・活動の背景とねらい・目的

古前地区のまちづくり協議会の課題の一つは役員の高齢化、今後より良い地域活動を継続し、進めていくためには若い世代の力が不可欠である。

若い世代を地域につなぐ仕組み作りとして、以下の2つに取り組み、子どもたちから親世代を地域につないで、活動の輪を広げていくことがこの事業のねらい・目的である。

- ① 小学生を対象に親子でまち協、まちづくりについて学び、地域行事を体験することでまちづくりへの理解、興味を深めてもらう。
- ② 体験したことを発表することで、ほかの子どもたち、保護者へ活動の楽しさ、やりがいを伝え、興味を持ってもらえるよう取り組んでいく。

取組内容

「古前地区文化祭」での出店、活動報告「プレゼン」に向けて、子どもたちが主体となって、話し合い準備をしていく。

8/24・・・・・・・・・・・・・・・・地域を知ろう！～まちづくりの仕組みを学ぶ～

8/31,9/28,10/5・・・・・・・・地域会議 模擬体験～文化祭の計画～

10/26,11/6,11/7,11/8・・・・地域会議 準備～文化祭の出店準備～

11/9・・・・・・・・・・・・・・・・地域行事 体験～文化祭に参加しよう～

11/15,11/22,11/29,12/7・・・・プレゼン ～発表に向けて準備しよう～

12/21・・・・・・・・・・・・・・・・プレゼン ～小学生や地域の方に向けて活動発表しよう～

成果・効果

まち協ジュニアとして活動することで、子どもたちのやる気と責任感が強くなった。子どもたちの熱量が保護者にも伝わり、手伝いに来てくれることが増えた。また、活動日以外にも、市民センターの行事に参加してくれるようになった。

メンバーの子どもたちが学校で行事等の宣伝をしてくれていることもあり、子どもや保護者など若い世代の来館者が増えている。また、まち協ジュニアの活動に参加したいという世帯も出てきていることは大きな成果である。

今後の取組

今後の課題である、「この活動が継続できる環境づくり」について取り組む。

- ① メンバー募集…小学校に依頼して、休み時間等を利用しての宣伝活動
- ② 育成…現在活動している小学生を中心に、新メンバーを育成していく。
- ③ 継続できる仕組み…小学生→中学生→高校生のように、小学生にとどまらず学年があがってもまちづくりの一員として活動を続けていくにはどうしたらよいか、子どもたち、地域とともに考え、持続可能なまちづくりを目指していく。

他地域展開を見据えた視点・ポイント

子どもたちを中心にとらえ、その保護者や家族を引き込む取組は、他地域でも取り組みやすい方法ではないかと考える。子どもたちが楽しそうにしていると周りも自然と笑顔になる。強引ではなく、笑顔が少しずつ増えるような取り組みを重ねていくことで、保護者、高齢者、多世代がつながり、地域活動の担い手が育つと思う。

活動の様子



「地域を知ろう」
まちづくりの仕組みを学ぶ



「文化祭の計画」
出店・役割分担について



「文化祭出展の準備」担当ごとに細かな準備を進める



文化祭当日
担当の最終チェック



「プレゼン」
地域、小学生に向けて
活動報告を行う。
自分の言葉で
思いを伝える。



地域・人づくりアドバイザー、地域・人づくり担当補佐の関わり

令和5年度から2年間にわたり、取り組んできた事業。
取組みに関して助言、また、疑問に答えながら、館長・職員・子どもたちに寄り添い、時には一緒にものづくりを行い、事業の進捗状況を見守り、支援した。

作成者

若松区役所コミュニティ支援課 地域・人づくりアドバイザー 土田トシエ